

平成28年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園中学校・高等学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期的目標

- 1 アシステンツァを実践する（生徒の主体性を育成する）
 - ① キリスト教精神に基づく教育活動の実践
 - ② 教職員対象のカトリック教育
 - ③ 祈りの習慣付け
 - ④ 保護者の啓発
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - ① 危機管理及び防災備蓄体制の確立
 - ② 実地訓練の充実
 - ③ 安全管理体制の公開及び発信
- 3 『「良心的な人間、よき社会人」を育成する教職員』を育成する
 - ① 社会人教育の実践
 - ② 社会貢献活動の展開
 - ③ 教育活動従事者としての意識と技術の向上
- 4 中高改革プロジェクトを推進する
 - ① 「2020」に向う体制づくり
 - ② 中高改革プロジェクトの推進
- 5 自然に挨拶が交わせる学園にする
 - ① 教職員間のコミュニケーション円滑化
 - ② 園児・児童・生徒、保護者への挨拶の励行
 - ② お客様、業者への挨拶の励行

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○清掃が行き届いている ○学習環境の面で安全である ○施設設備の安全管理が行き届いている ○緊急時の情報伝達が適切 <p>(すべて満足度90%以上)</p> <p><評価が相対的に低かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携を積極的に図っている ○学校の授業で十分な学力が身に付く ○幼小中高の連携が取れている ○家庭での学習が十分行われている 	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会（保護者）・各学校種管理職・評議員（学識経験者）により構成されている。平成28年度学校評価に関する検討は平成29年7月6日（木）に行われた。</p> <p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員について <ul style="list-style-type: none"> ・教員間のコミュニケーションが取れているとの声があった。また生徒の困りごとに丁寧に対応しているとの声もあり、日ごろの教員の姿勢が評価されているものと受け止めている。 ○生徒指導について <ul style="list-style-type: none"> ・校内の清潔さと生徒の気持ちよい挨拶で生徒全体の落ち着き度合がよく分かる。 ・生徒と教員との距離が近すぎるためにマナー指導が行き届いていないのではとのご指摘があるため留意されたい。 ○学習指導について <ul style="list-style-type: none"> ・学内でやっていることが保護者には十分伝わっていないようである。学習指導をもっと丁寧に、進学についてはもっと早めの指導を心がけるべきである。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 アッシステンツァを育成する 育成する 生徒の主体性を	アッシステンツァを充実させる	ア) キリスト教教育研修会を実施する イ) 祈りを励行する ウ) 宗教行事を実施する	設問「学校は建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている」のA・B評価が80%以上。 設問「建学の精神および教育理念に共感できる」のA・B評価が80%以上。 設問「学校の行事の数は適正である」のA・B評価が80%以上。	学校評価アンケート結果を評価指標とし、それを踏まえて自己評価を実施することとする。 ア) A・B評価 81.7%。研修会を実施し、キリスト教的な考え方やドン・ボスコの教育について教職員間で共有する機会をもった。(○) イ) A・B評価 86.6%。毎朝の朝礼、会議前後に全員で祈りを唱和する慣習は重んじられている。(○) ウ) A・B評価 78.3%。年間の宗教行事は司牧部を中心として教育的な側面からもよく準備し考えられた形で実施された。その意義を生徒・保護者にも適切な形で伝えていきたい。(△)
2 全園児管理を徹底する 児童・生徒の安	生徒の安全管理を徹底する	ア) 安全のための訓練を実施する イ) 危機管理に関する情報を共有する	設問「学校の施設・設備は安全管理が行き届いている」のA・B評価が80%以上。 設問「緊急時には情報を適切に伝えている」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 90.0%。施設設備の安全管理に問題はなかった。また全校安全委員会の企画のもとで、全校種防災研修会を生かした避難訓練を行った。(◎) イ) A・B評価 90.0%。HPやミマモルメを活用した情報発信は、これまでよりも高い頻度でより迅速になされるようになった。(◎)
3 『良心的な人間、よき社会人』を育成する 教職員の	教員はそれぞれにプロの集団の一員であることを自覚し、その向上を常とする	ア) 「担任力」「授業力アップ」等、教育力向上のための研修を実施する イ) マナー研修を実施する ウ) 人権教育教員研修会を実施する	設問「教員は十分な指導力を有している」のA・B評価が80%以上。 設問「教職員は社会人としての良識をわきまえた言動を実践している」のA・B評価が80%以上。 設問「学校はいじめ防止について十分に取り組んでいる」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 65.5%。各教員が教科、進路指導関係のいずれかの研修会等に参加し、指導の内容やあり方、授業のひと工夫として反映させた。時間をかけて成果を上げていきたい。(×) イ) A・B評価 76.5%。生徒の講習の際に教員も受講しているが、社会人としてのマナー、心遣いを向上させるため、今後は教員のための研修を実施したい。(△) ウ) A・B評価 66.7%。生徒の人権週間のテーマに合わせて教員研修を実施した。今後も継続実施していきたい。(×)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 中高改革プロジェクトを推進する	中高改革プロジェクトの実行	ア) 育成する生徒像「主体的に考え、行動し、学ぶ生徒」を実現する イ) 組織的な縦の繋がりを強化する ウ) 危機管理意識のもとで、職場環境の整理を心掛ける	設問「学校の教育目標について満足している」のA・B評価が80%以上。 設問「教員間での連携が十分に図られている」のA・B評価が80%以上。 設問「個人情報適切に取り扱っている」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 68.3%。行事作りや総合学習は生徒の主体性を育てる場となっている。授業の取組みでは、教員主導から生徒の活動をより多く取り入れる形を試行錯誤している。(×) イ) A・B評価 67.2%。教員間の情報交換はよくなされている。それを組織的な連携のもとで動かすことについて、今後も意識を向上させる必要がある。(×) ウ) A・B評価 83.2%。個人情報の取り扱いへの意識は高く、データ又は紙ベースでの情報管理を慎重に行うよう努めている。(○)
5 自然に挨拶が交わされる学園にする	組織的な縦の繋がりを強化する	ア) 教職員間で挨拶を励行する イ) 生徒に対し挨拶を励行する ウ) 来校者に対し挨拶を励行する	設問「教職員は気持ちの良い挨拶を行っている」のA・B評価が80%以上。	A・B評価 85.7%。 ア) 中高教職員間での挨拶はしっかり声を出して行われている。また、他校種や守衛、清掃の方々にも、意識して挨拶を交わしており、意識は高くなっている。(○) イ) 生徒の様子も見ながら挨拶、声かけをしている。(○) ウ) 外部業者や他校種の保護者などに対する挨拶は控えめである。学園に来られる方へのもてなしや労いの心を、もっと表現していくことを目指したい。(△)